

8月29日(金) アベノミクス大成功

さらなる「追加の金融緩和」や「財政出動」の話が出てきています。消費税増税による景気の落ち込みが予想より大きいからです。もう金利は下げようがないので、国債を買い取るなどで、要は増刷した1万円札を市中にばらまくのが「金融緩和」です。あるいは財政出動による公共事業などで内需喚起・景気浮揚をはかる策も考えられます。

金融緩和では、円安・株高を狙っているわけです。株高になれば潤った人たち、特に富裕層は高価格品などを買います。消費も上向き、物価も目標とする2%増へと向かうという算段です。消費税増税をやるかどうか、首相判断の基となる7月-9月GDP値などを改善する目的もあるようです。円安によって輸出が伸びる可能性もあります。財政出動では公共事業により内需の拡大が起こればGDP値もよくなります。以下はアベノミクスがこれから5年から10年ぐらいかけ、成功する場合のシナリオです。

追加の金融緩和による円安によって輸出が増え、貿易赤字が縮小します。景気の好循環が起き、中小企業の収益も好転します。同時に雇用も拡大し、労働者の賃金増が幅広い産業に及びます。穏やかな2%前後のインフレは、さらなる内需拡大へと導きます。

2015年の消費税増税により景気はいったん正念場を迎えますが、米国の好景気が世界に及び、新興国の購買力も向上。自動車や電気機器、機械だけでなく家庭用品など日本の良質な品物の輸出がさらに増大します。やがて貿易収支は黒字へと転換します。

東京オリンピックが近づくと、建設業や観光・旅行業だけでなく様々な内需が喚起されます。日経平均株価は公的年金基金などの買い支えもあって、順調に高値を更新。小泉政権時代の18000円を越え、2000年ITバブル時代の20000円まで回復します。

女性の活用・子育て支援策が効果を発揮。フルタイムで働く女性がほとんどとなり、管理職となる女性の比率が欧米並みに30%に近づきます。同時に出生率も徐々に高くなり、子供の数が前年比数万人単位で増えるようになります。

東南アジアを主とする良質な労働者が定着。出生率の向上と併せて人口減に歯止めがかかります。彼らの異質で多様な価値観や生活様式から新しい日本文化が生まれます。「ウォークマン」のようなユニークな製品が次々と生産されます。人気アニメ映画は世界に販売され莫大な利益を生み出します。

法人税減税により世界中から日本に投資が集まり、それまででない産業も生まれます。外資によって買収される業種や産業も出てきますが、それが新たな経済的発展を促します。たとえば電力は完全自由化されます。原発による安価な電力を買うか、少し高いが風力発電などクリーン・エネルギーを買うかが選べます。Jリーグやプロ野球も外資に買収されますが、世界中から超一流選手が集まるリーグに発展します。欧米をしのぐレベルの試合が展開され、マスメディアを通じて世界中のファンが注目します。その映像ソフトが大きな利益を生み出します。

証券・商品取引は「世界取引所」に統合されます。アジアの金融が世界の主流となり、その中心(本社)が東京取引所となります。1970年代から80年代の高度成長時に匹敵する経済成長が起こり、株価は1989年末につけた39800円を越え、50000円となります。

安倍首相は長期政権を維持し、念願の憲法改正を果たします。自衛隊は正式な軍隊となり、米軍に代わって日本を守ります。もちろん世界のどこかで紛争が起これば、国連や米国と協同し、陸海空軍を派遣して平和維持活動に貢献します。

皆さん違和感なく読めましたか。そういう部分が多ければアベノミクスは成功するでしょう。